

10月早々、東京都立大学の教員たちの間で、都が求めてきた「同意書」の扱いが大きな問題になった。

「都立の新大学の詳細設計への参加について」と題した文書の中身は、次のようなもの。「新大学設立本部及び教学準備委員会の下で、新大学に関する今後の詳細設計に参加することに同意します」

「教学準備委員会が必要と認めた場合を除き、詳細設計の内容を口外しないことに同意します」

この同意書は、学部長が教員一人ひとりに新大学での配置案を伝えるときに手渡す想

定のもの。9月25日付で、同30日までの回答を求めていた。

都は05年4月を目指して都立4大学（都立大、科学技術大、保健科学大、都立短大）

の統合再編を進めており、都によると、都立大を除く3大学ではすでに同意書の回収が終わっているという。

都立大の教員の一人は、腹立たしげにこう言う。

「大学として、都には『同意書』を提出しないことを決めたのですが、提出期限を過ぎた10月になって、東京都は学部長の

頭越しに各先生のメールボックスに入れようとしたのです。これは「踏み絵」ですよ。こんな強引な方法を使うのは理解できないですね」

事の発端は、東京都が8月1日に発表した「都立の新しい大学の構想」だった。都が、学部構成などについてまとめ

たもので、石原慎太郎都知事が自ら記者会見で公表した。

「都市教養学部」「都市環境学

部」などの4学部を設けるという構想だが、「法学部」や「工学部」など、現在ある学部の名前は見当たらない。八王子市にある都立大だが、ピジネススクールは晴海の都庁に、ロースクールは晴海に設置し、将来は大学も都心に移していくとしている。

を無視して一方的に作られたもので、手続的に問題があります。現にある大学の人や施設を使ってつくるのですから、われわれの意見も聞くべきです。さらに今回は、個々の教員に「同意書」に署名して提出することまで求めてきた。このようなトップダウンの方式はやめて、新たな協議の体制をつくるべきです」

英語学会会長も リストラ対象？

学部長らに配られた説明の書類には、こんなことまで書いてある。

「現行にとられすぎない新しい大学の設計を進めるため、設置者の責任の下にトップダウンの概要設計を行っている。したがって、原則的に個人の希望等をヒアリングする等の措置は考えていない」

「自治」を原則としてきた大学の改革で、どうしてこまで高圧的な進め方ができるのか。東京都大学管理本部の大村雅一参事が説明する。「改革の議論は01年にまとめ

都立大 トラ騒動

作家、石原慎太郎知事は文学者が嫌い？ 人文学部が看板の東京都立大学の改革をめくり、東京都の姿勢が関係者に波紋を投げかけている。構想の具体化に「同意書」を求める手法に、石原流トップダウンの「リストラ策」という反発が出ているのだ。

石原氏らしい、挑発的な言い方だったが、公表の仕方も石原流。都立大の茂木俊彦総長ら4大学のトップがこの構想の説明を受けたのは、発表の1時間前だったのだ。

こうした動きを批判して、10月7日に「声明」を出した茂木総長が話す。「都立4大学の改革は、00年から、大学も加わって話し合

流太郎 眞太郎 トップ教員



東京 リス

意 書
同 部
任 所
名

提示された新大学における配置案に同意した上で、新大学設立本部及び教員準備委員
の下で、新大学に関する今後の詳細設計に参加することに同意します。
また、教員準備委員会が必要と認めた場合を除き、詳細設計の内容を口外しないこと
同意します。

大学では450人程度に削減されるという。人文学部関係で残る定員は64人という。教授の一人が言う。

「人文学部が多いのは、他学部の学生にも教える語学と一般教養の教員がいるためです。学生の数と比較するのは不公平です。日本英語学会の会長をしている教授にカルチャーセンターのような「エクステンションセンター」に行けというんですよ。国文科もなくすという。役に立たない学問だということなのでしようが、入試でも人文の人気の高いということはどう評価するのでしょうかね」

確かに、受験生の評価は悪くない。駿台予備学校情報センターの坊野宏一郎長代理は都立大をこう評価する。

「東京都立大学は早慶など、私立の難関校との併願校で、文系は公立大学のトップクラスです。とくに人文学部は法、経済よりも実力、人気ともに上とされています」

都立大学も大学を挙げて反対しているわけではない。

鈴木浩平工学部長は言う。

「工学部内にも異論はありますが、8月1日に出されたプランを前向きにとらえ、團結して大学をよくしていこう、と考えています。突然の人員配置案に不満を持つ人もいることは事実ですが「具体的提案も含めて、言いたいことは言わせていただく」という姿勢で議論に参加していこうと考えています」

茂木総長が声明を出したことに対し、石原知事は、「新しいことにはほとんどどの人が反対する」などと切つて捨てた。

取材を進めていると、9日になって、3大学の学長が連名で意見表明をしたことを、東京都が伝えてきた。

「3大学においては、すべての教員から「同意書」が提出されている」

などと、3大学と都の足並みがそろっていることを強調している。

大学改革はトップダウンで進むのか。大学改革が叫ばれているなか、都立大学の行方は注目されそうだ。

本誌・松浦 新、大買隠子

確かに斬新で、「都立の大学は一新し、日本にない全く新しい大学をつくる」という石原知事の第2期の公約に沿ったものといえる。

英文学の高山宏教授は怒りをぶちまける。

「知事は公約を守ることしか考えていない。今までだれも手をつけられなかった大学改革にオレが手をつけた、と言いたいだけです。だから、改革に賛同しない者には議論に参加させない。新大学の具体的な検討をする「教学準備委員会」のメンバーに茂木総長さえ加われないんです」

大村参事が反論する。

「新しい大学を新しい理念でつくるのに、賛同する人が集まってるのは当然のことです。例えば慶応大学なら福沢諭吉先生がいて、早稲田大学なら大隈重信先生がいてつくったわけですよ。大隈先生がこうしろ、と言ったことをトップダウンというなら、トップダウンでいいのです。抵抗しているのは都立大学の人文学部だけ。総長も人文出身者です。人文学部は、学生が796人に対して、教員の定員が139人もある。その定員を守りたいだけなのです」

関係者によると、4大学合計625人の教員定員は、新

入れようだ。

「新しい大学を新しい理念でつくるのに、賛同する人が集まってるのは当然のことです。例えば慶応大学なら福沢諭吉先生がいて、早稲田大学なら大隈重信先生がいてつくったわけですよ。大隈先生がこうしろ、と言ったことをトップダウンというなら、トップダウンでいいのです。抵抗しているのは都立大学の人文学部だけ。総長も人文出身者です。人文学部は、学生が796人に対して、教員の定員が139人もある。その定員を守りたいだけなのです」

関係者によると、4大学合計625人の教員定員は、新

た「大学改革大綱」に基づいて進めてきました。8月までは、大学の先生にある程度任せて進めてきましたが、既得権益を守る姿勢がはつきりしてきた。時代とともに新しい分野が出てくるのに、スクラップをせずに古い分野を温存しようとする。従来の学部構成や学問分野にとらわれないで見直そうという「大綱」の精神に戻す構想を出さざるを得なかったということだ

「都は、改革を進める大学管理本部の本部長を6月に「更迭」し、構想を練り直す力の

入れようだ。

「新しい大学を新しい理念でつくるのに、賛同する人が集まってるのは当然のことです。例えば慶応大学なら福沢諭吉先生がいて、早稲田大学なら大隈重信先生がいてつくったわけですよ。大隈先生がこうしろ、と言ったことをトップダウンというなら、トップダウンでいいのです。抵抗しているのは都立大学の人文学部だけ。総長も人文出身者です。人文学部は、学生が796人に対して、教員の定員が139人もある。その定員を守りたいだけなのです」

関係者によると、4大学合計625人の教員定員は、新

入れようだ。

「新しい大学を新しい理念でつくるのに、賛同する人が集まってるのは当然のことです。例えば慶応大学なら福沢諭吉先生がいて、早稲田大学なら大隈重信先生がいてつくったわけですよ。大隈先生がこうしろ、と言ったことをトップダウンというなら、トップダウンでいいのです。抵抗しているのは都立大学の人文学部だけ。総長も人文出身者です。人文学部は、学生が796人に対して、教員の定員が139人もある。その定員を守りたいだけなのです」

関係者によると、4大学合計625人の教員定員は、新

入れようだ。

「新しい大学を新しい理念でつくるのに、賛同する人が集まってるのは当然のことです。例えば慶応大学なら福沢諭吉先生がいて、早稲田大学なら大隈重信先生がいてつくったわけですよ。大隈先生がこうしろ、と言ったことをトップダウンというなら、トップダウンでいいのです。抵抗しているのは都立大学の人文学部だけ。総長も人文出身者です。人文学部は、学生が796人に対して、教員の定員が139人もある。その定員を守りたいだけなのです」

関係者によると、4大学合計625人の教員定員は、新

●好評発売中●大江健三郎「新しい人」の方へ●画・大江ゆかり ●朝日新聞社刊 定価・本体1200円十税●